

3 教員養成に関する取り組みについて

教員養成・免許制度を取り巻く環境は大きな転換期を迎えており、質の高い教員の養成・確保を目的とする教育政策が順次実施されつつある。本学においては、従来から本学の教員養成に係る理念である「確かな専門的知識と広く豊かな教養を身につけた教師」、「人間の成長・発達について深い理解力を持つ教師」、「生徒に対する教育的愛情、教育者としての使命感を体現できる教師」のもと、教職課程の充実・発展に努めている。2009年度は、「教職センター」を設置して、大学全体として組織的に教職課程を改善・発展させる新たな指導・運営体制を構築した。これにより、教員養成を行う大学の社会的責任として、従来の教職課程の質を担保しつつ、「教員免許状更新講習」に取り組むと同時に、「教職実践演習」の新設の認定を得るなど、教員養成に積極的な対応を図った。

1 中学・高等学校教員養成に関する取り組み

●教育実習等

介護等体験生は305名（京都169名・瀬田136名）、教育実習生は、325名（京都182名・瀬田143名）となり、前年と比較し介護体験生、教育実習生ともに減少傾向となったが、教員を目指すという明確な目的、高い意識を持った学生は多く見受けられた。

●学校ボランティアへの取り組み

学校ボランティアや学校現場体験については全国的に取り組みがなされている。本学においても京都市教育委員会と協定を交わし実施している「学生ボランティア」学校サポート事業は、教職課程履修説明会等で積極的に勧め、本年度45名の学生が多くの学校でボランティアを経験した。

●広報体制の充実

教員志望者が早期から高い意識で教職課程を履修できるようにするために、1年次生および2年次生の低年次生へのガイダンスの充実を図った。また、Webサイトにおいても教員および本学教職課程に関する情報を分かりやすく正確に掲載するなどの改善を図った。

2 小学校教員養成に関する取り組み

●サポート体制の充実

小学校教諭免許状取得支援制度（佛教大学と協定を締結して実施）に参加中の学生の成績表をもとに、教職センター教員が面談を実施することで、学生の履修状況を把握するなど学生へのサポート体制の充実を図った。

●説明会の実施

2010年度から履修を開始する1年次生を対象にした履修希望者対象の説明会では、2008年度に引き続き佛教大学職員による説明を行うとともに、現在履修中の学生による体験発表を行い、1年次生のモチベーションアップに繋げた。